

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。ご家族はじめ関係者の皆様には、慶びもひとしおのことと思います。心からお祝い申し上げます。新しく名古屋大学の仲間になった新入生の皆さんに、全学を代表して心から歓迎の意を表します。

ご存知のように、現在、新型コロナウイルス感染が世界的に拡大し、私たちの生活や社会活動に大きな影響を及ぼしています。このような状況を鑑み、名古屋大学は感染の拡大防止のために、入学式を中止することといたしました。入学式という大変重要な行事を中止することは、新入生やそのご家族にとっても、また大学にとっても、極めて残念なことですが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

名古屋大学では、新学期の授業開始に向けて準備を進めていますが、今年は入学式中止に加えて、年度当初の各種ガイダンスや授業開始にも変更が生じています。ホームページなどで最新情報を確認していただきながら、名古屋大学での新しい生活を始めていただきたいと思います。判らないことがあれば、ホームページの連絡先に遠慮なく問い合わせてください。

今年は入学式で直接皆さんに語りかけることは叶いませんが、皆さんが名古屋大学のキャンパスで新しい生活を始めるにあたり、総長として、大学で学ぶことの意義や皆さんにどのような人材になってほしいかについて、メッセージを届けたいと思います。

皆さんは未来への希望に燃えて名古屋大学に入学しました。名古屋大学で学ぶ数年間は勉学や様々な活動を通して、皆さんが多くの人に出会い、人間的に成長し、将来の活躍の基盤を作る大切な時期です。総長としては、皆さんひとり一人が、名古屋大学の教育目標である「勇気ある知識人」に脱皮するために、名大キャンパスで過ごす時間を、存分に活用してほしいと願っています。

大学で何を学ぶか、何のために学ぶか、学んだものをどう社会で活かすのか、この問いは、大学全体に問われている問題でもありますので、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

私たちは今、人類の歴史上でこれまで経験しなかった新しい時代、それも将来の予測が困難な時代に足を踏み入れようとしています。人類の歴史を振り返ってみますと、狩猟時代から農耕時代を経て、産業革命がおこって生産性が大いに上がり、人口増加や社会構造の変化をもたらしました。一方では、様々な格差や環境破壊など多くの問題を生み出しました。人類社会はさらに進化し、コンピュータの発明やパソコンの普及、インターネット技術の発達私たちの生活を大きく変えました。モノに変わり、情報が価値を生む時代になったのです。

そして今、われわれが生きている時代は、あらゆる情報がデジタル化され、インターネットでつながって大規模に集積され、AI による処理によって実世界にフィードバックされて新しい価値が創造される、デジタル情報社会の始まりの時代であるといえます。そこではこれまでわれわれが想像もしなかった技術革新が急激に進行し、人間の能力を超えるような AI やロボット、様々なセンサーや情報ネットワークが社会に広く浸透している世界が垣間見えます。ここでは地球上のあらゆるものが、量的にも質的にも、現在とは大きく異なったものになっているでしょう。

世界的なベストセラー作家の歴史家、ユバル・ノア・ハラリ氏は、その最新作、「21 世紀の人類のための 21 の思考、21 Lessons」の中で、テクノロジーの飛躍的進歩の例について述べています。「情報技術 (IT) とバイオテクノロジーの双子の革命は、生命を設計しなおし、作り変える力を人間に与えつつあるが、生命とは何か、そしてこのような技術をどう使うかべきかについて我々自身が答えを出す前に、市場と社

会需要の原理が、答えを我々に押し付けるであろう」。ハリ氏はまた、「それに警鐘を鳴らし、物事がとんでもない方向に進みうる可能性を余さず説明するのは、社会学者や哲学者、そして私のような歴史学者の責務である」、とも述べています。人類社会が行き着く先は理想的なユートピアか、真逆のディストピアか、だれも正確に予測することはできませんが、これからの時代には、自然科学だけではなく人文科学や社会科学を含めた総合的な人類の叡智が必要である、といえます。

同様のことは、東京大学の吉見俊哉教授とオックスフォード大学の荻谷剛彦先生による対談、「大学は死んでいるか？」という本の中で述べています。大変刺激的なタイトルの本ですが、この中で吉見先生は、「学問には有用な知と、価値創造の知と、二つの知がある」、と言っています。どちらも社会に役立つのであるが、有用な知とは、既に与えられた目的に対して手段として役に立つ知であり、価値創造型の知とは社会の価値の軸を作る知である、と言っています。私見ですが理系は前者の色彩を多く持ち、文系は後者の性格を多く持っていると思います。また、応用研究や基礎研究といった分類軸があるかもしれませんが。重要なことはこれからの不確実な時代にあって未来社会を創るためには、これら二つの知あるいは多様な分野の学問の間での対話と連携が必要であるということです。

名古屋大学はこのような試みをずいぶん早い時期から意識をし、具体的な取り組みを進めてきました。名古屋大学は西暦 2000 年に大学の憲法ともいべき「名古屋大学学術憲章」を制定し、人文科学、社会科学、自然科学に関する学問の連携や融合を進めることを、高らかに宣言しています。名古屋大学はまた、多様な人材が集うキャンパス、多様な人たちが自由闊達に対話し、そして新しい価値を共創できるようなキャンパス、すなわちインクルーシブなキャンパスを創るために、多くの人が努力をしてきました。

人類社会は今、解決が困難でかつ人類の未来にとって深刻な多くの課題を数多く抱えています。その最たるものは環境問題であり、今世界的に流行している新型コロナウイルスにみられるような未知の感染症に対する医療社会経済システムの脆弱性もそうであります。このような時代にはまさに、学問的叡智が結集され、知識基盤社会を支える次世代型の大学が必要とされます。新入生の皆さんにはぜひこの名古屋大学のキャンパスで、人類の未来を創造し支える人材になるために、広い視野をもって学問に浸っていただきたいと思います。積極的に知識を得ること、科学的論理的な思考をすること、そしてその知を課題解決に活用すること、これらを名大のキャンパスで、多様な教員、研究者、先輩、同級生との交流によって学んでください。

最後に、名古屋大学の歴史とチャレンジについてお話します。名古屋大学の源流は今から 150 年前の明治 4 年に設置された仮病院・仮医学校に遡ります。この年は欧米の文化や技術、制度を学ぶために岩倉使節団が派遣された年でもあります。1939 年には医学部と理工学部からなる名古屋帝国大学が創立され、名古屋大学創立の年としています。終戦後の名古屋大学は数々の苦難を乗り越えながら、偉大な先輩諸氏や地域の熱い支援もあり、現在では日本を代表する国立総合大学の一つに成長しました。比較的新しく創立された名古屋大学は「自由闊達」な学風の下、学界や経済界に多くのリーダーを輩出してきました。自由闊達に学問を学び、科学や社会の進歩のために貢献する名古屋大学の伝統は、何物にも替え難い財産であります。

名古屋大学がこれからの新しい時代に、これまで以上に社会に貢献できる大学であり続けるためには、人類社会が直面している大きな課題に目を向けないわけにはいきません。また時代の変化にも敏感であることが必要です。私たちは名古屋大学にどのような課題がありどのような様な方策が必要か、この間大学で活発な議論を行うとともに、多くの改革を進めてきました。より大きなスケールで地域や社会に貢献を

きる大学になるにはどうすればよいか、新しい時代に相応しい新しい人材を育成するにはどうすればよいか、という議論を進める中で、同じ国立大学法人である岐阜大学と、大学間の垣根を超えた新しい国立大学法人を作ることによって基本的に合意しました。

今年度から、名古屋大学と岐阜大学は新しい国立大学法人「東海国立大学機構」のもとで、新たな歩みを始めます。これはわが国で初となる国立大学同士の法人統合であり、両大学は新しい機構のもとで大学の垣根を超えた新しい取り組みを数多く進めて行きます。中でも、次世代型の新しい教育の創造とそれを推進する組織「アカデミックセントラル」の実現に、大学を挙げて取り組んでいるところです。新入生の皆さんにはできるだけ早くそのような改革の成果が届くよう、教職員一同努力してゆきますが、どうか皆さんもその輪に加わり新しい歴史を創っていただきたいと思います。

以上、今まさに船出しようとする「国立大学法人・東海国立大学機構・名古屋大学」において、新入生の皆さんが思う存分躍動することを期待して、私からのお祝いと激励のメッセージといたします。本日はご入学、まことにおめでとうございます。